



プラチナ 投資の節目

大きな節目を迎えたプラチナ投資
ブリオンボールの
リサーチ ディレクター Adrian
Ash 氏が語る

ブリオンボールトはゴールド、シルバー、プラチナを扱う世界最大のオンライン地金市場で、投資家は地金を1グラムから24時間いつでも購入、保管、売却できる。

2005年に設立され、今や175カ国に及ぶ10万人の顧客の38億ドル相当の現物を保管している。顧客には英国の自己投資型個人年金(SIPP)や個人退職口座(IRA)、投資ファンド、企業の財務担当、公益財団なども含む。

ブリオンボールトはいつからプラチナの現物投資を始めたか？

我々は2017年にWPICとパートナーを組み、プラチナを提供し始めた。ゴールドとシルバーの成功を元に、有益な用途があるのに過小評価されてきた貴金属であるプラチナを加えて市場を拡大する好機と捉えた。

「貨幣のような」金属とされるゴールドやシルバー同様に、コインや小型インゴットのような現物プラチナを手元に保管したい個人投資家はいる。しかし我々はプラチナ

を安全な専用保管庫で保有しながらも好きな時に時価で売却したい投資家が増えていると考えており、それがブリオンボールの顧客が急増している背景だ。

我々の顧客の多くは貴金属をポートフォリオ資産の一つと捉えており、低い保管費用で、流動性が高く非常に安全な貴金属のインターバンクマーケットで効率よく取引ができることに満足している。またヨーロッパの顧客にとっては保管庫から資産を引き出さなければ付加価値税が免除されることも大きな魅力だ。

ブリオンボールトが最近到達した節目とは？

我々は過去2年間で大きな成長を遂げ、先日我々の顧客のプラチナ保有高がついに2トンに達した。これは時価でほぼ6500万ドルに当たる。

2020年1月からのコロナ禍の中、もちろんゴールドが貴金属投資の中で最も大きなシェアを占めているが、プラチナ投資は我々の顧客の中で割合的に最も増加のスピードが速い。

我々の顧客の貴金属保有量は、去年初めからゴールドは21%、シルバーは49%、そしてプラチナは126%それぞれ増えた。その比率順位は2021年になっても変わらず、プラチナへの関心は依然高いレベルだ。

プラチナ投資の増加の背景は？

我々の観点から見ると三つの要因があると思われる。一つ目はもちろん、コロナ禍で生じた不安で投資家が現物資産に向かったことだ。

二つ目はプラチナ価格がゴールドとパラジウムに比べずっと低いままだということで、これが割安な資産を求める投資家に道を開いた。

三つ目はゼロカーボンを目指す政府や企業が燃料電池の可能性に真剣に注目し始め、それが電解装置、定置型発電システムや燃料電池自動車など、水素製品に使われているプラチナへの関心を高めたことだ。

プラチナ投資の伸びのうち、新規の投資家と、保有量を増やした既存の投資家の割合は？

今年からの新たな顧客も、2021年以前からの顧客もプラチナ投資を増やしている。割合からすると英国とユーロ圏の顧客はゴールドよりもプラチナにより多く投資している。これはゴールドのコインと小型インゴットはすでに消費税を免除されている上に、我々によるプラチナ投資の付加価値税免除の特典が、節約に敏感な投資家にとって魅力的だからだろう。

我々はシルバーにも、他のコインや小型インゴットの小売業者にはない付加価値税免除の特典を提供しているが、英国とユーロ圏投資家は、シルバーよりもプラチナに多く投資している。これはプラチナの現在の価格が魅力的であると同時に、西ヨーロッパでは他の地域よりも、プラチナの産業への長期的な有益性が理解されているからであろう。

投資家はファンダメンタルズに基づく長期的な視点よりも、どの程度、短期的な価格の変動に影響されているか？

2021年初めの価格上昇で一時、顧客の間でネット売りが、そして秋の高値でも利食い売りのため、プラチナからわずかながら資金が流出した。

しかし短期的な流動性は顧客の根本的な買い傾向には影響していない。プラチナはゴールドやシルバーよりも短い期間で我々のオンラインプラットフォームで売買が活発に行われるようになったが、大部分の顧客は一度購入すれば保有し続ける資産としてプラチナを扱っている。

顧客が現在保有するプラチナのうち、ほとんど9割が今の価格レベル以下で買われたものだ。このような長期保有が増えていることこそが、顧客がプラチナに長期的価値を見出している証拠だろう。



ブリオンボールのリサーチディレクター
Adrian Ash氏

WPIC はインゴットとコインの需要、ETF取引共に2022年も引き続き活発化するとみているが、ブリオンボルトからみた2022年のプラチナ需要は?

16年間の経営で我々が学んだことは結局、地金の需要を左右しやすいのは、ゴールドへの関心をはじめとして、マクロ的要因、広範な金融情勢であることだ。

ということで我々は一年先でも動向や予測をしないわけだが、しかしプラチナは自動車触媒に使い続けられるし、水素経済における戦略的な役割が急速に高まっていることから、2022年、そしてそれ以降も、より広い範囲の貴金属投資家からの新たな投資を呼び込むと考えており、現在の価格レベルはその長期的な投資性に見合っていないと思う。



Contacts:

WPIC London

Brendan Clifford, Investor Development, bclifford@platinuminvestment.com

Trevor Raymond, Research, traymond@platinuminvestment.com

David Wilson, Research, dwilson@platinuminvestment.com

Vicki Barker, Investor Communications, vbarker@platinuminvestment.com

WPIC Japan Japan@platinuminvestment.com

Sophia Zeng, Japan Market Development Manager, szeng@platinuminvestment.com

DISCLAIMER: The World Platinum Investment Council is not authorized by any regulatory authority to give investment advice.

Nothing within this document is intended or should be construed as investment advice or offering to sell or advising to buy any securities or financial instruments and appropriate professional advice should always be sought before making any investment.

Images are for illustrative purposes only. More detailed information is available on the WPIC website:

<https://platinuminvestment.com/>